

心を燃やせ！

IT推進の熱意を伝播させるには？

緊急企画

「御社にそのシステムは不要です。」

中小企業のための「失敗しない、IT戦略」の著者に聞く

中小企業のための
「失敗しない」IT戦略

御社に
そのシステムは
不要です。

株式会社ジョイン
代表取締役社長
四宮靖隆

大丈夫。あなたの助けになるこの一冊！
本質的な視点の鋭さに、業者も真っ青！
サイバー株式会社
代表取締役社長
青野慶久

中小企業
を中心に
システム構築
700社強!!

あさ出版

エンジニアが自らおもてなしを創造する時、
秀逸なシステムが誕生する。
星野佳路

何かしらずをつけたいの？
DXって？
どこに依頼すればいい？
この1冊で、その疑問に
すべて答えます！
お金、いばいかるんじや...

16:00～17:00 第一部 講演

「御社にそのシステムは不要です。IT化、業務改善を失敗させないためには。」
コロナ禍において自社のビジネスモデルの変革が求められています。人との接触機会を減らさざるを得ない状況で事業を継続させるためにはITの活用は必須要件となります。IT化を進めるために経営者、現場担当者、情報システム部門に求められるマインドや取り組み方について事例を交えながら紹介いたします。

17:10～18:00 第二部 ディスカッション

IT推進を成功させるには、担当者が熱意を保ちつつ周りをうまく巻き込んでいくことが重要です。第二部では皆様のお悩みや成功パターンの共有・共感を通じ、参加者皆で熱意向上を目指します。

18:10～19:00 第三部 座談会

第一部、第二部で「聞き足りない」「語り足りない」という方向けに、交流の場をご提供します。

進行メンバー

		
下原 (座長@東京)	嶋口 (座長@大阪)	前田 (事務局)

Zoom操作・ 音声ガイダンス

クオリティソフト社
PCNW事務局
川合 (かわい)



本日の講師

株式会社ジョイゾー 代表取締役社長 四宮 靖隆 氏

東海大学文学部卒業後、文系出身でメールもろくに使えない状態で、システム開発会社に入社し、情報システム部門に配属。

その後、2010年にkintone専門SIerとなる株式会社ジョイゾーを設立。

定額制対面開発サービス「システム39」を中心に700社以上の業務改善を支援。

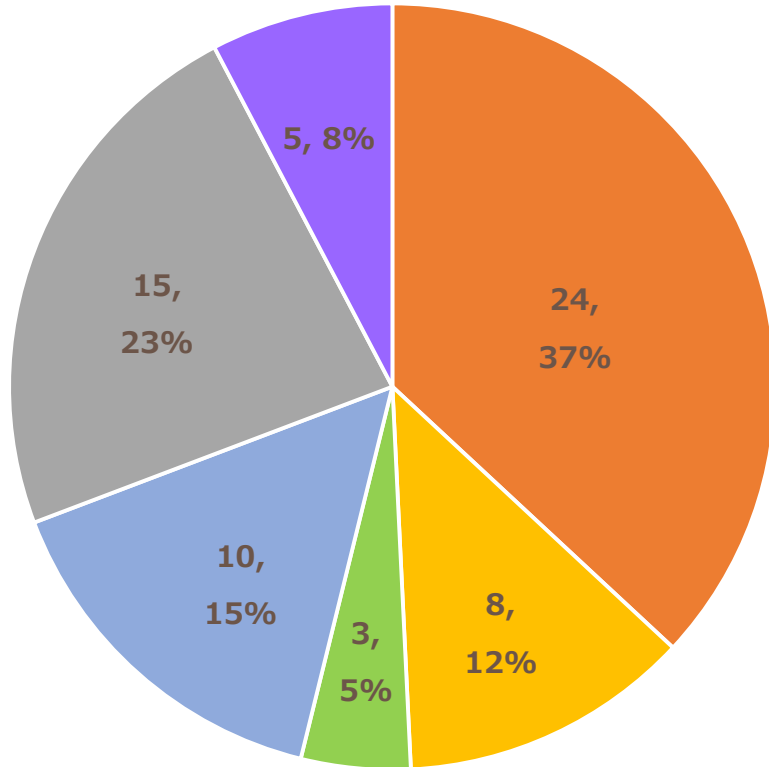
第一部：講演

※講演資料については 今回は非公開※

第二部：ディスカッション

事前アンケート結果

Q1:DXや業務改善に関するプロジェクトの有無



- 既にあり、自分も所属している
- すでにあるが、自分は所属していない
- プロジェクトの立ち上げに関与している
- プロジェクトの立ち上げの動きがある
- そのような動きはない
- その他

その他の回答

業務改善はあるが、DXまでに至っていない
今後必要となるであろう事案の関しての予備知識習得
クライアント様にDXや業務改善の提案をする立場

草の根的には存在するも「医者の不養生」よろしく、自社のことにはなかなか手が回らない。そもそもがDXと言ってもワークフロー程度であり、今の人数的には大きな問題になっていないこともある。

Q2 : DXや業務改善のプロジェクトが始まったきっかけ①



情勢を受けて : 3

DXは話題・世の中の流れと思う（業務改善の全社活動は以前からある） きっかけはわかりませんが業務効率化からきているかと思っています。

技術的負債の刷新に関して、2025年の崖というバズワードをうまく利用しながら、本質的ではないがDXというワードをうまく利用して今まで投資が難しかった技術的負債の刷新に向けて経営層に改善の必要性をアピールしていく。

世の中のITに対する期待が高まったため、遅れないように

コロナ禍 : 7

コロナ禍におけるオンラインへの対応に迫られて

ニューノーマルの中対面営業がなくなり、どのように顧客接点を増やしていくか、新規顧客をどのように獲得していくのかが課題となり始まりました。

コロナ禍によって人員の見直しからの業務内容の見直し

オンライン講義の増加など

コロナの影響で紙ベース、Excelベースで行っている業務については、社内向け社外向け問わず、システム化していこうという流れになっている。

社内申請などにExcelベースの紙が残っていた為、コロナ対策のためとしてリニューアル。

新型コロナウィルス

オリンピック対策・働き方改革 : 3

2020東京オリンピックきっかけです

2010年から始まり、働き方改革を目的として始まった

テレワーク推進のため業務のペーパーレス化を実現したい。

Q2 : DXや業務改善のプロジェクトが始まったきっかけ②



上層部の意向 : 4

上から降ってきた／経営層からの指示

財団全体の方針

経営改善計画の一貫として。

システム構築の経験のある人が代表取締役役に就任したのがきっかけ

キーマンの登場 : 2

DX担当者が入社し、新たな事業を開始したため。

IT革命家の入社

自分（申込者本人） : 3

システム担当として業務改善に携わってきましたが、システム化することが目的だと会社から思われてしまいがちなので、システム化ではなく業務改善を目的とする部署を立ち上げたいと上申中です

DELLのDXアクセラレーションプログラムに参加したので

自分から数年前に社長に提案

社内事情 : 4

基幹システムの入替

システム部門の価値向上の取り組みの一環

グループ会社離脱に伴い、自前のシステム構築が必要となったため

自社のサービスの中で他社に対して業務改善のサポートを行う面があり、まずは自らの足元からということで業務改善が始まりました

その他 : 3

課題を発見次第始まる。常に。

I T化で業務効率化を目指す。

収益の増加とサービス品質の向上

Q3：自社内でのITで改善したいこと①

概念的なこと（分類不可）：5

ユーザーのリテラシー向上、ITスキル全般の向上

リテラシー向上、ニューノーマルへの意識

顧客に対してIT活用の提案をするのが弊社の仕事ですが、紺屋の白袴も多いです。

生活そのもの

昭和システム、プロセスをデジタルありきに変換するための障壁

業務効率化・業務整理：10

業務効率化、CBT対応など

手作業の削減

カオスマップの整理

業務の自動化

業務の効率化

業務改善 人的リソースの再配置 データ活用による経営方針の策定

人が増えてきたことで全体での作業の報告が難しくなっており、効率的にかつ、負担のかからない方法での共有

WINDOWSUPDATEの効率化 外部ネットワーク回線安定化

ITに限らないが経理業務の効率化・短期化

製造現場の改善

Q3：自社内でのITで改善したいこと②

システム連携・一元化：6

個別システムのID管理やID登録

（現在個別システムごとにIDを割り振り登録しているが、抜け漏れがあったり、退職者IDが残っていたりがあるので）

手間 各種連携

システムの一元化

事務の請求書発行システム（一部システム外のExcelデータあり）と総務の請求・支払システムの連動。
勤怠管理と給与計算の一元管理（従業員100人に見合う価格のものが見つからない）

システム連携による業務効率化

密結合化している基幹システムの疎結合化。

ワークフロー・承認関連：2

勤怠管理やワークフローなど

セキュリティ関係の申請などが煩雑すぎる。

ペーパーレス：4

紙業務の撤廃。リアルなコミュニケーションの実現

印証の文化の改善（紙での申請を減らし電子申請に変えていく）

まずは紙ベース、Excelベースで行っている業務をクラウド等のサービスにもっていきたい。

業務時間削減とペーパーレス

Q3：自社内でのITで改善したいこと③

クラウド・サーバ・通信インフラ：5

元々が旧Office365時代からのフルクラウド環境にありオンプレミスの構成がなかったもので、改善と言えば契約書のクラウド管理程度
オンプレミスとクラウドのハイブリット化
SaaSへのシフト
社内サーバーのフォルダ階層(さがしにくい、バックアップが取りにくい)
通信インフラの整備と高速化、ネットワークサーバのクラウド化。

人的なこと：2

既存のやり方に固執するPC苦手な層への対応
経営層をITに任せたい。

その他：4

資産管理ツールを導入したい
セキュリティ
メールでの連絡が多く、必要な連絡の確認が漏れる、遅くなってしまう。
作業効率を求めるだけではなく、新しい気づきを導き出せるように

Q4：不要なシステムを作ってしまった、導入してしまった①



システム導入系：8

図面管理システム。必要に迫られ導入したが、業務を進める中で一般的なNASで管理すればいいじゃんとなり、システム化までは不要でした。。。

BIツール→誰も活用できていない状況・・・。

制限が甘かったために、様々なWeb会議ツールやチャットツールが導入された。

当時の上司の指示で稟議書の回覧システムを作ったが、役員が反対して導入されなかったことはあります。

ジャストシステムのユニットベースを導入しましたが、あまり業務に使われず不要になってしまい解約したことがあります・・・

勤怠管理システム

嬉々としてAsteria warpを入れたが、会社が売られてシステムが親会社の物になり、使う機会無く除却された。

tableauを試験導入し、ほぼ使われず1年で解約することになった。

スクラッチ・属人化系：5

Excelのマクロ類

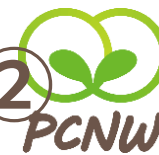
手組の日報システム

数年前に、関連先専門学校でメインフレームに業務システムを構築したが、使われた出力系のプログラムが既にサポート切れのものであり、かつDBの排他制御不備、DBのマスタテーブルの不備等があり、ベンダーの処理ミスによるデータ破損もあり、1年度だけの利用で終わった。

クラウドDBソフトの導入で自分たちで希望通りのSFA/CRMを組もうとしたが、実際には初期段階で終了してただの作業依頼DBとなってしまった。

退職した過去のIT勇者が作った属人システム

Q4：不要なシステムを作ってしまった、導入してしまった②



その他の回答：4

守秘義務がありますので・・・

その時々で最善なものを選んで採用しているので、不要だったことはないと思っています。
ただ、それでも高額なものは、資産償却するまでは利用してきた認識はあります。

事前の試験運用を徹底しているので、不要なものはないと思う

一時は必要であったものが、使われなくなることは良くあるが最初から不要は、特に浮かばない

Q6：講師に聞いてみたいこと①

失敗回避：4

失敗を見切るタイミングとコツ

シームレスな仕組み構築における留意点

不要なシステムが作られるそのきっかけは为什么呢？ 業務が分かっていたら考えにくいのですが。
(業務が替わった場合はシステム変更が必要なのは分かりますが)

導入時点での話も興味あるのですが、すでに導入されてしまっているが、有益性の観点から、廃棄させていくライフサイクルについてもお聞かせ・議論出来ればと思います。廃棄プロセスではどうしても維持したいという導入者側の思いだったり、少数の一部の声の大きさなどにより、廃棄プロセスが進みにくいという課題を感じています。

人的な対応：6

本業務優先のため、効率化に消極的な社員にはどう説明すれば良いでしょうか。

IT化が目的となっている勢力を説得するには システム化や可否を決めるにあたってシステムオーナーやエンドユーザーと話すべき事、にぎっておくべき事

IT化すると自分の仕事がなくなるとおびえて協力してくれない人（困っていること、業務効率をあげたい業務を隠している人）にはどのように働きかければよいでしょうか。

経営者のやる気があっても現場へ浸透しない、できないケースを前に進める作戦を教えて欲しい

システムの本来解くべき課題を残しながら、システム化だけを進めたいという考えのお客さん（とにかくそのシステムを導入することの承認が下りており、予算もそのシステムに対してついている状況）に対して、どのような形で本来の課題に向き合わせるように勧めたら良いでしょうか？

情報システム部門としては、「ITを理解しようとしないう、利用してもメールだけ、のような経営者は、出ていけ！」と思いたくなる場面が殆どだと思います。情報システム部門として、持つべき矜持は何でしょうか？

Q6：講師に聞いてみたいこと②

その他：5

市販のソフトウェアがどれもマッチせずQ4※のような結果になってしまった。市販ソフトウェアは楽々販売(旧働くDB) 時間をしっかりとれない場合、ソフトに運用を合わせるのが解となってくるのでしょうか？

※クラウドDBソフトの導入で自分たちで希望通りのSFA/CRMを組もうとしたが、実際には初期段階で終了してただの作業依頼DBとなってしまった。

サーバに保存された個人データの管理方法

改善案は出せるが、金額面が全く分からないので、指標があれば伺いたい

説明資料送付を希望

情報収集の方法

